

採択大学等名

## 立命館大学

(共同申請校:東京大学、福島大学)

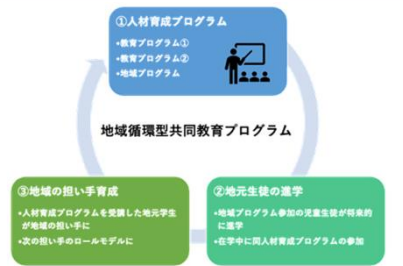
連携市町村名

双葉町、大熊町、浪江町、葛尾村、川俣町

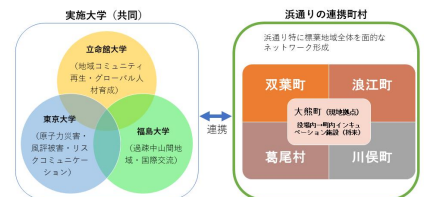
### 取組概要(目的)

本事業は、風評払拭、リスクコミュニケーション、生業再建、コミュニティ再生などに関する人文社会科学分野の復興知をネットワークし、東日本大震災および原子力災害を研究し、長期避難を余儀なくされた浜通りに関わり研究・教育活動をしてきた3大学が共同で、学生・院生の地域でのフィールド教育、また地域の児童および住民向け教育のプログラムを構築し、教育を通して「人」が循環し交流する「地域循環型共同教育プログラム」を構築する。ひいては浜通り地域で活躍する人材、浜通り地域を研究する「地域循環型」人材を育成する。具体的には、双葉町・大熊町・浪江町・葛尾村・川俣町等の標葉地域を中心に実践する。

「地域循環型人材育成」とは、持続的な教育プログラムを実施することにより、教育プログラムの修得者が将来の人材育成の担い手として地域人材に成長することを想定したものである。原子力災害によって生じた課題においては「解」のない問いを持ち続け、多面的・複眼的に物事をとらえ「最適解」を導き出すような教育プログラムの実施が必要である。これは課題先進地域と言われるふくしまをフィールドにすることにより、将来の日本の様々な地域課題を解決する人材の育成にも寄与できる。具体的には正課・正課外・地域と3つのプログラムを実施し、そこに参加した児童・生徒および住民が、3大学に進学をすることをめざす。なおこれによって入学した地元学生については、本事業における人材育成プログラムの履修をすることにより、在学中も福島の地域課題について学術的見地から探求をすることができる。将来は、こうした学生が地元の担い手となり、さらには次の人材育成のロールモデルとしてプログラムにおける地元講師などを務めることをめざし、地域が循環して人を育てつつ自走していく仕組みを構築する。



【概要】地域循環型共同教育プログラム



人材育成プログラム  
人文科学の見地から原子力災害から地域再生を担う人材育成プログラムの展開  
教育プログラム①(正課教育)  
教育プログラム②(正課外教育)  
地域プログラム(地域における生涯学習・レカレント)

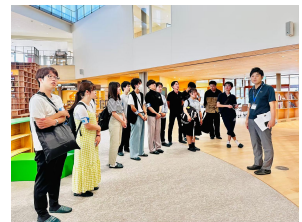
【目標】これからの浜通りおよび日本の地域再生を担う人材の育成

### これまでの成果

#### 正課外プログラム

【立命館大学「チャレンジふくしま塾」】福島のこれまでとこれからに関心を寄せる学生たちと、福島や震災からの復興に関わる教員や専門家と学び発信活動に取り組むプログラム(福島県庁と立命館が連携して2017年度にスタートした課外プログラム)「大熊町・双葉町」、「檜葉町・浪江町」、「川内村・葛尾村」グループの3グループでフィールドワークを実施。

【立命館大学】大熊町・学びの森の南郷校長の話聞く学生



#### 正課プログラム

【立命館大学「教養ゼミナール」】「ふくしま、東北の復興から学ぶ課題解決プロジェクト」をテーマに、原子力災害によって引き起こされた地域課題を解決する課題解決型学習を中心に、「解のない課題」に挑戦する人材の育成を目指すプログラム(2023年度より春学期の正課科目として新設)大熊町・双葉町・檜葉町・南相馬市の4グループで現地フィールドワークを実施。課題解決策を提案。



【立命館大学】双葉町・住民の話聞く学生

#### 正課プログラム

【東京大学】教育部生(学部生相当)向けの「メディア・ジャーナリズム研究指導」や大学院生向けの「原子力災害論」などにおいて、正規カリキュラムを事前学習として実施。また浪江町・大熊町・双葉町などの双葉郡において、学生を対象とした現地フィールドワーク型の実習を実施。本教育プログラムにおいては、福島県内の施設や人が現状、誰に何を伝えようとしているのかを学び、「人に災害の経験を伝える」ということを考える。



【東京大学】浪江町・大平山霊園を訪れた学生

#### 正課プログラム

【福島大学】一部の学生交流協定校より短期留学生を招き、福島県の各地域に赴き、地域住民や学生等との交流を中心としたフィールドワークプログラムを行う。世界で誤解されやすい福島に関連するトピックを英語で解説し、異文化・日本文化を浜通り地域でのフィールドワークを通して体験する。



【福島大学】津波災害について学ぶ留学生

#### 地域プログラム

【立命館大学】現地中学・高校の要望に応じて、学内の教員らが中学生・高校生・学校職員向けに出前授業を実施(2022年度より開始し、川俣高校・中学校等で生徒・職員向けの授業を行っている)。



【立命館大学】川俣町・川俣高校で出前授業を受ける生徒

その他①「福島県立ふたば未来学園」に立命館大学の指定校推薦枠を新設→2023年度1名入学  
②東京大学大学院修士が伝承館研究員として就職、浜通り地域への移住、日本災害情報学会第25回学会大会優秀発表賞(2022年度)を受賞

### 事業終了時点の成果及びその後の見通し

事業終了時点では①原子力災害からの復興を「自分ごと化」し、かつ移住・定住人口もしくは関係人口の拡大(プログラム実施により浜通り移住者も生まれている)②地域プログラム実施を通じて新たなチャレンジを後押し(昨年度インターシップ参加の学生が浜通りでオンライン学習支援を実施予定)③浜通り地域との継続した交流の促進④町の賑わいの創出という成果が見込まれる。

2026年度以降は、5年間の事業成果をふまえ、自走して運営ができることをめざす。なお、入試等を活用し、同プログラムを履修した学生が進路選択を検討する時期にもさしかかることから地元浜通りの担い手として活躍してもらえよう、連携町村と協力し地元定着をめざす。

年度	参加団体の数	教職員			学生			浜通り地域住民		
		参加人数	オンライン参加人数	参加人数	オンライン参加人数	参加人数	オンライン参加人数	参加人数	オンライン参加人数	
2021	33	186	121	254	221	0	0	0	100	14
2022	41	132	57	477	6	78	2	0	12	0
2023	21	65	8	503	0	0	0	0	0	5
小計	95	383	186	1234	227	78	2	0	112	19
合計	95	569		1461		80		0		131

本事業へのこれまでの参加人数(のべ人数)